

白熱討論！第1回パブリック・ディベート・フォーラムルール

1 目的

パブリック・ディベートとは、市民社会における公共の論争的なテーマを論題とし、一般市民に公開しても理解が得られる討論のゲームを意味し、市民社会における議論への参加を促すことを目的とする。

2 参加者と運営

(1) チームで対戦することとし、1チームはディベーター4～10名で構成し、各ディベーターは予選2試合のうち最低1試合に出場しなければならない。1つの試合において出場メンバーは、必ずいずれかのステージにおいてスピーチ（質疑応答も含め）を1回は行うものとする。なお、1つのステージを複数名で担当することができる。

(2) 試合は、司会者が進行し、計時係が計時し、記録者がスピーチの記録を行い、予選は3名の審判が評価、判定する。審判の代表者は、試合終了後に講評を行う。

3 論題と形式及び時間

(1) ディベートは、以下の形式及び時間で展開する。

ステージ1	A都市州都宣言	5分間
	B都市からの質疑	3分間
ステージ2	B都市州都宣言	5分間
	A都市からの質疑	3分間
	準備時間	2分間
ステージ3	A都市からの反論・比較優位議論	4分間
	B都市からの反論・比較優位議論	4分間
	準備時間	2分間
ステージ4	A都市からの再反論と総括	3分間
	B都市からの再反論と総括	3分間

4 評価と勝敗、順位の決定

(1) 審判の構成

予選試合の審判は3名で構成され、1名は日本パブリック・ディベート協会推薦の審判、残り2名は、実行委員会推薦の社会人審判とする（ディベート審判の経験を問わない）。

(2) 評価は、第1に試合の評価、第2に達成評価を行う。また、2つの評価による評点を合計して、その試合におけるチームの成績得点とする。

① 試合評価は、試合における両チームの対戦結果としての議論の全体を対象に、次のように5段階で評価を行う。平均的な場合を評点3として、優れている場合は評点4、非常に優れている場合を評点5とする。一方、劣っている場合は、その程度に応じて評点2、さらには評点1と減じていく。この評点を決定する観点、以下の3つである。

ア 重要な論点に集中した議論には、広がりや深まりが認められる。

イ 両者の議論によって、いずれの結論が導かれても、その根拠は豊かである。

ウ 両者の議論によって、道州制における九州について考察する視野が拡大された。

この評点は、複数の審判が協議して決定する。

② チーム評価は、以下の2つの観点によって、各3項目で達成評価を行う。達成できたと判断されたら、1点を与える。

ア 九州愛・地域愛

【1】 道州制の導入による一体化する九州の新しいイメージを示すことができた。

【2】 対戦チームの選択する州都候補地を尊重し、その考えをよく理解していた。

【3】 州都候補地の選択による独創的な視点・発想で表現できた。

イ 議論力

【1】 明確な構成で主張を述べることができた。

【2】 確かな根拠を示しながら、主張や質問、反論、総括ができた

【3】 両都市の比較をわかりやすく行い、討論全体をまとめることができた。

(3) 決勝進出チームの選抜などのために順位を決定する場合は、第1に成績得点の合計数を基準とする。それでも同順位のチームがある場合は、抽選による。

(4) 決勝では、会場の聴衆が投票行い、その結果によって勝敗を判定する。

5 反則

本ルールに反する行為は反則とし、その程度に応じて該当チームにペナルティーを課す。